

汽笛がきこえた街



若見政宏詩集

Wakami Masahiro

汽笛がきこえた街

若見政宏詩集

著者略歴

若見政宏 (わかみ・まさひろ)

1940年 豊橋市に生まれる。

詩集 1999年『半島』(れんげ草舎)

2003年『都市の物語』(石の詩会)

2008年『道』(書肆青樹社)

選集 2010年『欲望の街 流れる人』(文芸社)

所属 中日詩人会会員、詩誌「仙人掌」同人

現住所 〒466-0801 愛知県名古屋市昭和区田面町 2-21-1

詩集
汽笛がきこえた街^{まち}

発行 二〇一五年三月一〇日

著者 若見政宏

装幀 森本良成

発行者 高木祐子

発行所 土曜美術社出版販売

〒162-0813 東京都新宿区東五軒町三二〇

電話 〇三―五二二九―〇七三〇

FAX 〇三―五二二九―〇七三一

振替 〇〇一六〇―九七五六九〇九

印刷・製本 モリモト印刷

ISBN978-4-8120-2205-4 C0092

詩集

汽笛がきこえた街

*

目次

沈黙	灯台	汽笛	沖仲士	孵	孵	孵	埠頭の朝	白い原像
46	44	40	36	3	2	1	14	6
				32	24	18		

夏の夜
56

鉄筆
64

鍵
70

紅旗
74

幻想の灯
78

奄美
86

あとがき
92

詩集

汽笛がきこえた街

*

目次

沈黙
46

灯台
44

汽笛
40

沖仲士
36

船
32

船
24

船
18

埠頭の朝
14

白い原像
6

夏の夜
56

鉄筆
64

鍵
70

紅旗
74

幻想の灯
78

奄美
86

あとがき
92

詩集

汽笛がきこえた街

白い原像

せつなの影像が

かるやかに白壁をうつろう

影とよぶに

なまなましく

実像というに

はかない

きみの影像

自らを鼓舞するのか

似像を

三体つらねて

白い装束

といっても貫頭衣より少しましなだけ

菅笠に

わらじ

解かれ

風となり

かろやかに

白壁をすべっていく

人が人にぶつかって

黙って通りすぎていく

駅構内の

しらじらとした

都市の孤独

〈一言あれば救われるだろう〉

職場の文化誌にしるした きみは

一九六〇年代 初頭

南島から都市へ移動した

きみの他人^{ひと}の名を呼ぶ

音の律動は

なさけの山をのほりおりる

集う人の波形をあらわしていた

辺境

堪えた歴史を有つものがかもす

母語の

地の^{つち}

ひびきだ

希望という推進力と

絶望という迷路と

父の時代をこえる

無名のものらが

つかのま

躍動した

美しく

残酷な

一九六〇年代

さまざまなものが

自をふりかえり

夢のように語っている

そこに

欠落した視点は

破壊のあとの

建設

と現在が

詩は

過激であっていい

虚構だから

それは

個の嗜好だから

政治は

異質の連合であらねばならぬ

歴史はもどせない

が

あの

到来の日々に

それぞれの潮流が

それぞれのちがいを

誇示するに

情熱をかたむけるのではなく